

タイトル:平成 23(2011)年度 教育セミナー

日時:平成 23 年 9 月 17 日(土)~20 日(火)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「モロッコ王国農村部における女性の労働と学び——アルガンオイル生産共同組合の活動を通して」

岸本 紗也加

(大阪大学大学院 人間科学研究科 グローバル人間学専攻 国際協力学講座 博士前期課程 2 年)

本感想文では研究セミナーの参加動機、感想及び最後に改善点を述べさせて頂きたいと思います。

私が本研究セミナーに応募した理由は主に 2 つあります。

まず 1 つ目は、イスラーム地域の様々な分野を専攻に研究されている学生及び先生方の発表より、知識の幅を拡大しなかったからです。私が所属する研究科ではイスラーム地域を対象とした研究に従事する学生仲間及び教員がいないからです。

次に、研究発表のチャンスがあるためです。また、発表時間は約 40 分あります。私の所属するゼミには学生が多い他、留学生が大半を占め、使用言語は英語です。そのため、発表の機会が限られているだけでなく、発表時間も非常に短く、英語で行うためか深く議論が出来ぬままあつという間に終了するのが現状なのです。そのため、中東☆イスラーム教育セミナーでは合計約 1 時間もの貴重な時間を割いて頂き、研究発表さらにディスカッションを行うというのは特に私にとって非常に貴重な、ゼミでは経験できない大チャンスだったのです。

本研究セミナーは合計 4 日間に渡り開催されましたが、学生仲間及び先生方のご発表からの収穫は大変大きかったと思います。また、自身の研究発表を通じ、研究を振り返る良い機会でもありました。正直なところ、私は研究に行き詰まりを感じ、方向性を見失っていました。発表後に某先生より「理念がない」との厳しいコメントを頂いたと同時に「とても面白い発表だった」「あなたは期待の星だから、頑張っ
てね」と励ましのお言葉も頂きました。研究内容にまとまりが無く、自己満足していない状況でしたが、研究発表をして本当に良かったと思いました。

最後に、今後に向けた改善点を指摘したいと思います。セミナー期間中、一度も会話を交わすことなく、また研究に関し議論することなく大阪に戻らなければならなかった点は後悔しています。(自身の恥ずかしがり屋な性格が一番の要因かと思われませんが、)発表続きの過密なスケジュールに会話を楽しむという「ゆとり」がなかったのも事実であろうと思います。慌ただしく過ぎてしまった 4 日間でしたが、お互いを知るために、よりリラックスした雰囲気で開催されるためにも、簡単なゲーム、遊びの時間をセミナースケジュールに加えると良いかもしれません。また、発表者は先生方や参加者からより多くのご意見、ご指摘を望んでいるはずですが、コメントシートのような用紙を配布し、ディスカッションで語りきれなかった部分は文字化して発表者に渡すと、とても参考になりますし、素敵な思い出にもなると思います。